

令和4年度

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0290300490		
法人名	医療法人 メディカルフロンティア		
事業所名	サポージュ白山台		
所在地	〒039-1113 八戸市西白山台5-3-12		
自己評価作成日	令和4年7月1日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	公益社団法人青森県老人福祉協会		
所在地	〒030-0822 青森県青森市中央3丁目20番30号 県民福祉プラザ3階		
訪問調査日	令和4年9月16日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

当事業所は、令和2年7月に開設いたしました。全国各地で新型コロナウイルス感染拡大しており、入居された利用者様には、自由に外出や面会をして頂けなく心苦しい日々を過ごしております。当施設周辺には遊歩道があり、四季折々の花が咲くなど、恵まれた環境の中にあります。本来であれば、毎日散歩に出かけたり、ご家族様と有意義な時間を過ごすことも可能であったと思いますが、今年度は、施設内で過ごすことが多い日々となりました。そんな中でも、行事やドライブを楽しかったと言っていたり、日課の体操やレクリエーションに意欲的に参加頂いている利用者様の姿があります。今後も、利用者様に寄り添い、本人本位のケアを引き続き目指していきたく思います。

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

住宅街に位置しており、道路に面しているが、車の騒音は事業所内では響かず、静かな環境である。近隣には小学校があり通学路となっており、日常的に小学生の姿を見ることが出来る環境である。コロナ禍の令和2年に新規開設された事業所で、地域交流等が思うようにできない状況の中でも、小学生への朝の挨拶、事業所内での月1回の行事、花や野菜を利用者と一緒で育てたり楽しめるような工夫をしている。研修会は年間計画に沿って、月1回実施している。職員が全員介護福祉士の資格を所持しており、看取りも含めた重度化への対応を行うなど、質の高い介護を提供している。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「誠実に、謙虚に」の法人理念を、スタッフルームにか掲げ、常に意識しながら業務に取り組んでいる。	法人の理念を常に意識できるように、年に2回の面接時や理念を書いた用紙をトイレの扉へ掲示したり、周知をしている。地域密着サービス事業所として、「地域の中でその人らしく過ごす」ため、法人の理念と関連付けた事業所の理念の作成を考えている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会活動への参加は、新型コロナの影響により自粛している。小学生の通学時や、近隣に散歩へ出かけた際は、挨拶を交わすなどして交流している。地域の防犯カメラの設置場所として協力させて頂いている。	町内会活動への参加は自粛しているが、事業所の前を小学生が通学するときは挨拶をしたり、敷地内で、外にいるときは近隣の住民が声をかけてくれたりする。町内会長、副町内会長、民生委員は運営推進会議メンバーになっている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	コロナ禍の状況にあり、町内会との関わりを持ちにくい状況にあり、今年度は実施できていない。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	今年度は書面での開催となっているが、感想やご意見、疑問や質問を返信いただき、意見交換を行っている。	コロナ禍のため、書面でのやりとりになっている。近況報告、行事内容、事故報告等も行っている。今後は、看取りを実施した場合はデスカンファレンス内容を会議でも報告する予定である。事故報告に関しては、アドバイスをもらっている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市の担当者からは普段からメールや電話で情報交換をし、ご協力を頂いている。また、疑問点の確認、報告時には市の窓口を訪問し、よりよい関係構築に努めている。	普段の連絡は、メールや電話で行っている。コロナ禍のため、市役所の担当者が来たのは実地指導時のみだが、相談や報告時には窓口を訪問したり、協力関係を築くようにしている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束の指針に従い勉強会を行っている。月1回の会議内では、対応の工夫について意見交換を行っている。	身体拘束指針を作成しており、研修会も年間計画に沿って、実施している。研修会は職員が資料を作り、講師を担当するなど、職員の学びの機会としている。玄関の施錠は行わないなど、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修を行い、利用者様の尊厳を守り安心して暮らしていただけるように、取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	内部研修を行い、学習している。外部研修へ参加後は、研修報告も兼ねた学習会を開催している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約、解約時、改定前には重要事項説明書、契約書の内容の読み合わせを行いながら、内容の説明を行い、納得されてから同意の署名を頂いている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関には、ご意見の記入用紙を設置しポストへ入れて頂けるようにしている。利用者様からのご意見は、普段の会話から頂くことが多く、職場会議で検討させて頂いている。	「ご意見の記入用紙」を設置し、外のポストへ入れてもらう様にしているが、今まで意見の投函はない。利用者の意見の反映は日常会話から、家族は電話連絡時や、来所時に聞くようにしている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回の職場会議内で、意見を出して頂く時間を設けている。また、事前にでた意見についても申し送り時に話し合うことも多い。年2回は個人面談を行い、意見を出して頂いている。	月1回の職員会議や、年に2回の面談時に聞く機会もあるが、日常的に意見や提案はできる。新たに物品等を購入する場合は、職員間で必要性の有無を検討して、購入伺い書に理由を添えて提出する体制ができており、職員の意見の反映ができています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	個人で取り組んでいる業務の進行具合については、こまめに相談に乗るなどし、業務時間内で実施できるようにしている。有休の申請を促すなどし、休みの取りやすい環境づくりに努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修参加を推進し、希望の研修や参加できるよう勤務調整を行っている。内部研修では、担当者が研修資料の作成を行うことで、個人のスキルアップへもつながっている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	コロナ禍の為、研修等への参加機会が少なく、他事業所との交流が難しい為、法人内で交互研修の機会を作っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用開始前の面談にて、情報収集を行い、ご本人様の要望や、困りごとを把握し対応している。安心して利用できる馴染みの環境は、継続利用できるよう支援している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	利用開始前の面談にて、情報収集を行い、ご家族様の要望や、困りごとを把握し対応している。利用開始後も、細目に連絡をとり生活の様子の報告などを行っている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	利用開始前の面談にて、利用者様、ご家族様の困りごとに対するアプローチを複数提案し、施設利用についてのご理解を深めて頂けるようにしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	洗濯物を干したり、洗濯畳み、玄関外の花に水やり、行事等で使用する装飾作成を職員と一緒にやり協力頂きながら行っている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族様へは、細目に連絡を入れ生活の様子を報告している。馴染みの環境利用の際は、ご家族様へ同行して頂くことも多くある。広報を活用し、ご家族様へ行事の様子をご報告している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	利用者様からの希望で、手紙の投函や、携帯電話の操作介助などを行っている。	コロナ禍で、馴染みの人や場所との関係継続の支援等はできていない。手紙の投函の支援や、携帯電話を使っている利用者があるので、使うときの支援などを行い、関係性が途切れないようにしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者が同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	同テーブル内での関わりが円滑になるように、席の配置などを工夫している。職員が間に入ることで、利用者様同士で関わりを持てるように促している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所時は、これまでの関係に感謝し「なんでも相談してください」と声をかけるようにしている。退所後、他家族のことでご相談を受け、申し込みを頂いている方もある。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	普段の会話や関わりから、本人様の意向の把握に努めている。困難な場合は、ご家族様からの情報や、ご本人の行動や表情から検討を行っている。	入居前の訪問時に、今までの暮らしや思い、意向などを詳細に聞き、支援に活かしている。入居後は、普段の会話や仕草などから支援する中で思いや意向を把握し、詳細に記録に残すことで職員間で共有するようにしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご家族様からの情報収集と、前サービスの担当者より情報収集をさせて頂いている。本人からの情報を含め、生活歴や環境の把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の関わりの中で、利用者様の言動から心身状態の把握に努めている。有する力については、気づいたことを記録に残し、職員間で共有できるようにしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人様、ご家族様からの希望を伺った後、職員間でのカンファレンスを行い、介護計画を作成している。カンファレンスは、職場会議内での開催を基本とし、訪問看護とのカンファレンスも別日に開催している。	介護支援専門員、居室担当者が中心となり、介護計画を作成している。カンファレンスを、月1回の職場会議内で開催し、検討している。日常の記録の他に、1ヶ月毎に本人の状況を居室担当者が詳細に評価をしている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子は、個別記録に記載している。特記事項は、日誌にも記入し口頭での申し送りも行っている。記載された記録をもとに、毎月評価を行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人様、ご家族様の要望に沿い、通院時の送迎、退院時の送迎介助など、必要に応じて柔軟に対応している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	今年度は、外出の機会が極端に少なく、ご家族との面会も自由にできない状況にあり、実施できていない。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力医療機関の往診を利用されている方もある。また、長年診て頂いている主治医へ定期的を受診されている方もある。	基本は、入居後もかかりつけ医であるが、内科的疾患に関しては、系列の病院の往診を受けている。内科以外の受診は家族対応で行っている。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護師の来所時に、利用者様の状況報告を行い、相談・助言を頂いている。24時間対応しており、随時、連絡、相談している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には、施設からの情報提供を行い、病院関係者との情報共有に努めている。入院中も、連携室から治療の進捗状況や、入院中の様子などの情報提供をして頂き、同時に当事業所でも対応できる事などを伝えている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に、重度化した場合や、終末期についての意向確認を行っている。体調に変化があった時は、ご家族様へ説明・意向の再確認を行い、同意を得た上でケアを行っている。ご家族様へケアについての要望を伺い相談しながら、医療職との連携を図り支援している。	入居時に重度化した場合や、終末期についての意向の確認を行っている。入居後、重度化して、看取りの希望があった場合は、看取りのマニュアルが整備されており、利用者、家族、各関係機関とも連携して、事業所内で看取りを実施している。調査時も3例目の看取りを実施中であった。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変や事故発生時には対応マニュアルに沿って対応している。施設内にはAEDが設置されている。AEDの使い方、応急処置について定期的に研修を行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	防災マニュアルを整備している。委員会職員が中心となり、防災訓練を実施、職員の周知に努めている。	防災マニュアルにそって訓練を実施しており、記録も整備されている。コロナ禍のため、地域の協力を得ての訓練はできていないが、収束後は、実施する予定である。食料や水などは3日分を災害用として備蓄している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	職場内の研修にて、言葉かけについての研修をおこなっている。人格を尊重し、プライバシーに配慮した言葉を選ぶように努めている。	一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応に関しては、一番気をつけているため、研修会や年に2回の面接毎に確認や周知を行っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	二拓での質問をする等、自己決定できる機会を増やしている。コミュニケーションを多くとることで、本人様の言動から察知できるように努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	希望があれば意向に沿って変更していく。一人一人のペースを大切にしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	希望者には訪問理容を利用して頂いている。毛染めやパーマの希時には、洗髪のお手伝いも行っている。衣替えの時期には、筆筒の整理を一緒に行っている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者様からの希望があるときには、代替品の使用や、調味料の変更をする等している。コロナ禍の為、感染防止を重視し職員のみで準備、片付けを行っている。	コロナ禍においても、一緒に準備や片付けを行っていたが、コロナが発生した時期からは、職員のみで行っている。収束すれば再開する予定である。法人の栄養士が献立を作っているが、利用者の希望に合った献立に変更する事もあり、楽しんで食事ができる工夫をしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	メニューは栄養士が作成して提供している。食事形態は、本人にあわせた形態で提供し、摂取量記録している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアを促している。一人一人に合わせた物品を使用し、必要な方は介助をおこなっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄記録表に記載。参考にしながら、本人の排泄パターンを把握し、さりげない声掛けを意識しトイレ誘導を行っている。必要時には介助を行う。	排泄記録表で、利用者のパターンを把握して支援を行っている。テープタイプの紙おむつを使っている利用者は1名のみで、利用者の排泄パターンにあわせてトイレでの排泄ができる様に声掛け、誘導の支援をしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄の有無は把握できているため、毎日、水分補給や運動を促し、自然な排泄をはたらかけている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた支援をしている	利用者様に合わせたタイミングで入浴できるように声掛けしている。同性介助や、時間、湯温など、個々に合わせた内容に変更しながら入浴できるように、環境を整えている。	基本は週2回の入浴支援であり、できないときは、清拭や足浴などで対応をしている。特殊浴槽が整備されており、重度化しても対応している。入浴拒否の利用者に対して、職員間で支援内容を検討して、入浴回数が増えてきた事例もあり、臨機応変に対応している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々に合わせた室温、採光で環境整備している。寝具はご本人様の希望に合わせている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬前に必ず薬情報を確認し照合している。また、薬の作用、副作用も合わせて確認している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	家事作業に取り組む中で、役割分担ができている。毎月、何らかの行事を計画しており、気分転換につながっている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	今年度は、外出機会が極端に少なく、受診以外の外出はできていない。利用者様の希望時には、屋外へ出たり、気分転換にドライブへ出かけることもある。	コロナ禍のため、現在は受診時に外出をする程度である。しかし、気分転換や季節を感じて欲しいという思いから、人が少ない場所を選んで、花見等ドライブに出かけたりする支援も行っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	現金の自己管理をされている方もある。施設内の自動販売機で購入されている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話は希望時にいつでも使用できる。職員が代行し電話をし、お話できるように取り次ぐこともある。手紙のやり取りは、自由に行っていただいている。投函は介助している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	食堂には季節の掲示を行っている。廊下には行事の写真や、日々の写真を掲示し、楽しんで頂いている。	令和2年の開設の事業所で、廊下の広さが特徴的で、利用者が集う場所は明るく、利用者、職員で作った四季を感じる作品の掲示を行っている。野菜や花をプランターで育てて、楽しみながら季節を感じてもらえるような工夫をしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	廊下には椅子を配置し、外を眺めながらお話しされていることもある。互いの居室を行き来したり、食堂で過ごしたりと、思い思いに過ごされている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入所時、使い慣れたものを持参いただけるようにお話ししている。ご本人様が安心して過ごせるように配置なども工夫している。	ベッド、ロッカーは備え付けであるが、入居時には使い慣れた物を持参して良いことを説明している。家族の写真など持ち込んでいる。また、本人の状態に合わせて家具等の配置を行っている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	利用者様の目線に配慮して、居室の目印や表示をしている。		